

論文審査の結果の要旨

報告番号	共博(医歯薬)甲第9号	氏名	中嶋 遥美
学位審査委員	主査 光武 範吏 副査 江口 晋 副査 熊井 良彦		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、我が国で標準治療抵抗性の甲状腺分化癌に対して近年開始された分子標的薬レンバチニブ治療での生命予後を規定する臨床的指標を明らかにしようとするもので、その目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>本研究では、レンバチニブ投与後の症例について、 Kaplan-Meier法、スチューデントのt検定、フィッシャーの正確確率検定、コックス比例ハザード回帰モデル等の統計学的手法を用い、様々な臨床指標について解析したもので、上記目的を達成するために適切なものであった。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>Kaplan-Meier曲線に有意差が認められた指標は、癌性胸水、症候性転移病変であった。コックス比例ハザード回帰モデルでは、年齢、症候性転移病変が死亡リスクを有意に上昇させるという結果であった。生存群、死亡群の比較では、腫瘍サイズ減少や再増大までの期間には差は認められなかったものの、サイログロブリン値再上昇までの期間は、生存群で有意に長かった。難治性分化癌に対する分子標的薬の最適な開始時期は未だ明らかになっていないが、本研究によって、癌性胸水や症候性転移病変が出現すると生命予後不良であることが示唆された。</p>			
<p>以上のように、本論文は難治性甲状腺分化癌に対する分子標的薬の使用法に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものであると判断した。</p>			